

BBT 大学 中長期計画

日本経済は、バブル崩壊後 20 余年に渡り下り坂を転げ落ち、内向き、下向き、後ろ向きの状況が続いている。アベノミクスで景気を持ち直しているかにみえるが、確固たる具体的な成長戦略があるわけでもなく、スローガンだけが先行し、先進国として真っ先に突入している少子高齢化に伴うマーケットの縮小に対処できているわけではない。このような中、日本経済を、教育を通じて活性化すべく、以下の施策を考えているところである。

大学、大学院の中長期の方向性



- 教育目標:
 - 建学の精神に則り、世界で活躍するグローバルリーダーを育成すること
- 大学のグローバル化対応
 - カリキュラム
 - 英語で教える科目の充実
 - 大使館と協業したコンテンツ開発
 - 学生
 - オンライン大学の特性を活かした海外からの学生の受け入れ
 - 大学
 - BOND大学及び海外大学との提携
 - システム
 - ACの英語化

まずは、閉塞感が漂う日本経済を活性化すべく、内向き、下向き、後ろ向きの視野を国際的視野に向かせる、いわゆるグローバル化に向かっていくように、本学のカリキュラムの改編を図ってゆく。特に、カリキュラムの英語化に関しては、社会のニーズに合わせ進めてゆく、卒業までのカリキュラム内の英語の比率を高めていく方針である。英語で教える科目を提供することと本学のオンラインの特性を活かすことによって、受講できる学生が世界中に広がることになる。まずは、科目単位でも数多くの国籍の学生が受講することによって学内が多様化、グローバル化し、異文化の理解を深めながら国際的視野を広げられるようにしてゆきたいと考えているところである。

このように学内をグローバル化することによって、価値観の違うクラスメイトとの議論を通じ、新たな視点による価値観を理解することによって、知的創造力、並びに、グローバルリーダーとしての素養が醸成されていくことを期待している。また、知的創造から生み出される新しいビジネスアイデアを、勇気をもって、リーダーシップを発揮し実現していく起業家精神豊かな人材を育成してゆきたいと考えているところである。さらに、カリ

キュラムの英語化を充実してゆくことによって海外の大学との提携もスムーズになり、交換留学制度も充実させ、より一層のグローバル化を推進してゆきたいと検討している。

以上のように卒業までのカリキュラムを英語のみでも完結できるようになることが理想ではあるが、本学の経営基盤を鑑みながら、カリキュラムの英語化の推進並びに、英語で講義のできる教員の採用も含め、教職員組織のグローバル化を検討してゆきたいと考えているところである。実際に実行する際に、人的リソースの多くは、本学の建学の精神を理解した卒業生を組織化し対応してゆきたいと考えている。また、オンライン教育システムの AirCampus® の英語化のための開発を 3 年以内に完了できるように英語化に関するシステム開発に人的、資金的投資を優先的に配分するものとする。また同時に競合に対し、常に競合優位を保つべく、継続的な開発の投資を続けてゆくものとする。今後、入学してくる学生、および、教職員の国際化、多様化により、グローバルなマネジメントに関する知見を蓄積することがより容易になり、新しい価値の創造につながるような組織運営を目指してゆくこととする。

次のステップとして、グローバルリーダーとして活躍できる人材を育成するために、英語によるカリキュラムを充実させた後は、例えば、NGO、NPO なども含め世界社会に貢献する人材を育成することを目的とした国際公共学部など時代の要請に応じた新たな学部の設置も検討の選択肢の一つの可能性として考えている。また、経営学研究科としては、例えば、MBA in Finance、MBA in Entrepreneur などの専門性を強化したコースを検討している。このように学部、研究科の学問の幅を広げてゆきたいと考えている。

また、直接、本学の運営にかかわることではないが、本学の設立母体である株式会社ビジネス・ブレイクスルーの子会社であるアオバジャパンインターナショナルスクール(AJIS)は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校を運営している。幼稚園から大学、大学院までの一貫教育を通じて、世界のどこにいてもグローバルリーダーとして仕事で結果を出し、活躍する人材を 2014 年度に入園の園児が大学に入学するまでの 15 年間かけて育成してゆきたいと考えているところである。

以上に加えて、起業を目指す在学生、修了生向けにインキュベーションセンターを設立する予定である。本インキュベーションセンターでは、新規に起業した会社に対し、軌道に乗るまでサポートしてゆくというものである。資金面についても株式会社ビジネス・ブレイクスルーの「スタートアップ起業家支援プロジェクト」に則り、自己資金をリスクマネーとして当該企業に出資する。このようにハンズオンでの協力、並びに、リスクマネーとしての投資など、株式会社立の大学でなければできないことを特徴として実行してゆく所存である。

<成長戦略>

更に本学は、大学という枠を超えて、世界の国々対し、教育格差による経済格差を解消することで世界社会へ貢献してゆくというビジョンを据えている。教育環境が整備されて

いない為に十分な教育ができない、知的人材不足のため経済が発展しないといった、教育格差が経済格差を生む現実がある。それを打破するため、物理的校舎が不要であるというオンライン教育の特徴を生かし、校舎等の教育環境のインフラ整備ができない発展途上国に対し、本学のカリキュラム、あるいは、義務教育レベルのカリキュラムを AirCampus® で閲覧可能とし、オンライン教育のプラットフォームとして提供してゆく。このように、発展途上国において十分な教育を受けられない人々に対して教育の機会を提供することによって、教育格差だけでなく経済格差の是正に貢献したい。それを通じて世界社会に貢献してゆきたいと考えている。